

平成 17 年度競争評価「固定電話領域における市場画定(案)」の概要

1 平成17年度競争評価(固定電話を対象)のスケジュール

- ・ まず分析対象となる市場の範囲を画定し、その画定された市場に基づき競争状況を評価。
- ・ 「市場画定案」に関する意見募集を2月22日(水)に公表。本日の公開カンファランスを経て、3月中に決定する予定。
- ・ 引き続き4～5月を目途に競争評価結果に関する意見募集を公表予定。

2 平成17年度市場画定案の概要(別紙)

(1) 固定電話の市場構造の整理

- ・ 加入と通話を分けず、両者を一体的にとらえた市場とする。
- ・ 「加入」は、①NTT加入電話、②直収電話、③CATV電話、④OABJ電話の選択肢が存在。
- ・ 「通話」は、⑤中継電話、⑥050-IP電話、⑦ソフトフォンから選択可能。①では通話がアンバンドルされ自由に事業者選択できるが、②～④では通話がバンドルされ限定的選択。

(2) 固定電話市場(サービス市場)の画定

→ 市場の範囲を「①NTT加入電話、②直収電話、③CATV電話、④OABJ-IP電話」と画定。

【理由】①～④の選択肢は需要の代替性が高い(機能面で大差なし、加入時の比較検討対象である等)

(3) NTT加入電話部分の扱い

→ ①NTT加入電話を「部分市場」と扱い、その需要構造を分析するとともに、通話部分(⑤中継電話、⑥050-IP電話)の競争状況をそれぞれ分析。

【理由】・NTT加入電話は独立性が高い(加入と通話が構造的に分離、乗換費用が大きい等)

・⑦ソフトフォンは需要が未成熟なため市場画定せず、入手データの範囲内で分析

(4) 地理的市場の画定

→ 都道府県を分析対象の最小単位とする。

→ 競争状況を勘案して、東日本・西日本の2地域又は全国10の地域ブロック(電力系事業者の業務区域)に分けて地理的市場を画定。

【理由】データの入手可能性等から、県レベルが最小単位。地理的市場は競争状況の差異により画定するため、NTT東西の別による2地域又は電力系事業者の別による10地域の市場分析が必要。

(5) 050-IP電話の扱い(インターネット接続市場との関係)

→ 050-IP電話については、「固定電話市場」としての分析に加え、「インターネット接続市場の部分市場」として、及び「IP電話市場(050-IP+OABJ-IP)」としても多面的に分析。

【理由】050-IP電話は中継電話の通話機能を代替するが、多くの利用者はインターネット接続の付加サービスとして認識。また、OABJ-IP電話との区別の認知が低く、ともに「IP電話」として認識。

(6) 移動体通信市場との関係

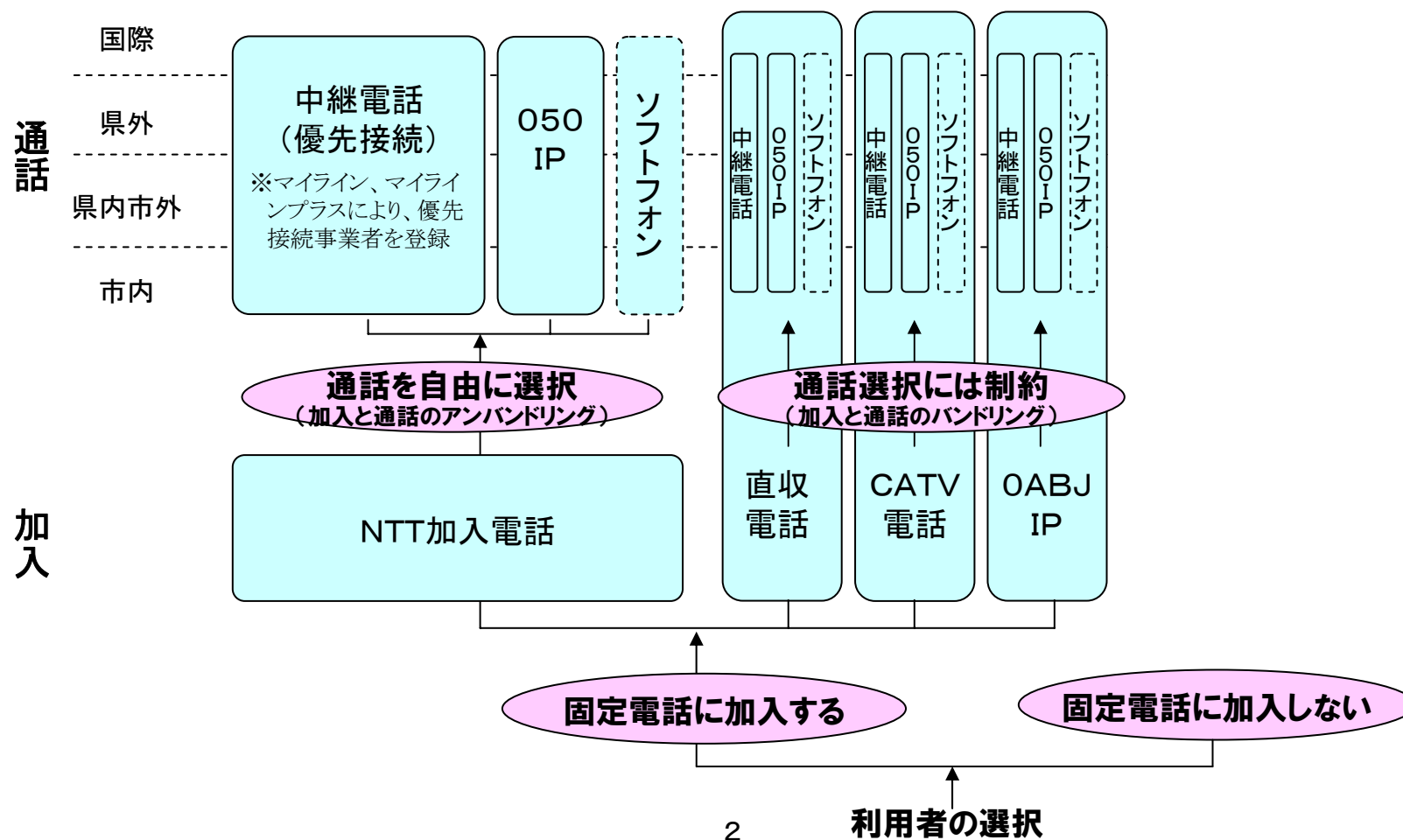
→ 固定電話と移動体通信は別市場(レバレッジやFMCサービスの動向を注視)。

【理由】互いに一定の代替性は認められるものの、併用等の補完性もあり、同一市場とするのは不適切

固定電話の市場構造の整理

別紙

- 固定電話サービスは「加入」と「通話」からなり、利用者はこれらを一体的に評価。
- 「加入」は、NTT加入電話、直収電話、CATV電話、OABJ—IP電話の選択肢が存在。
- 「通話」は、NTT加入電話は通話がアンバンドルされ自由に事業者選択可能、その他は通話がバンドルされ事業者選択は限定的。



固定電話市場(サービス市場)の画定 ～概要～

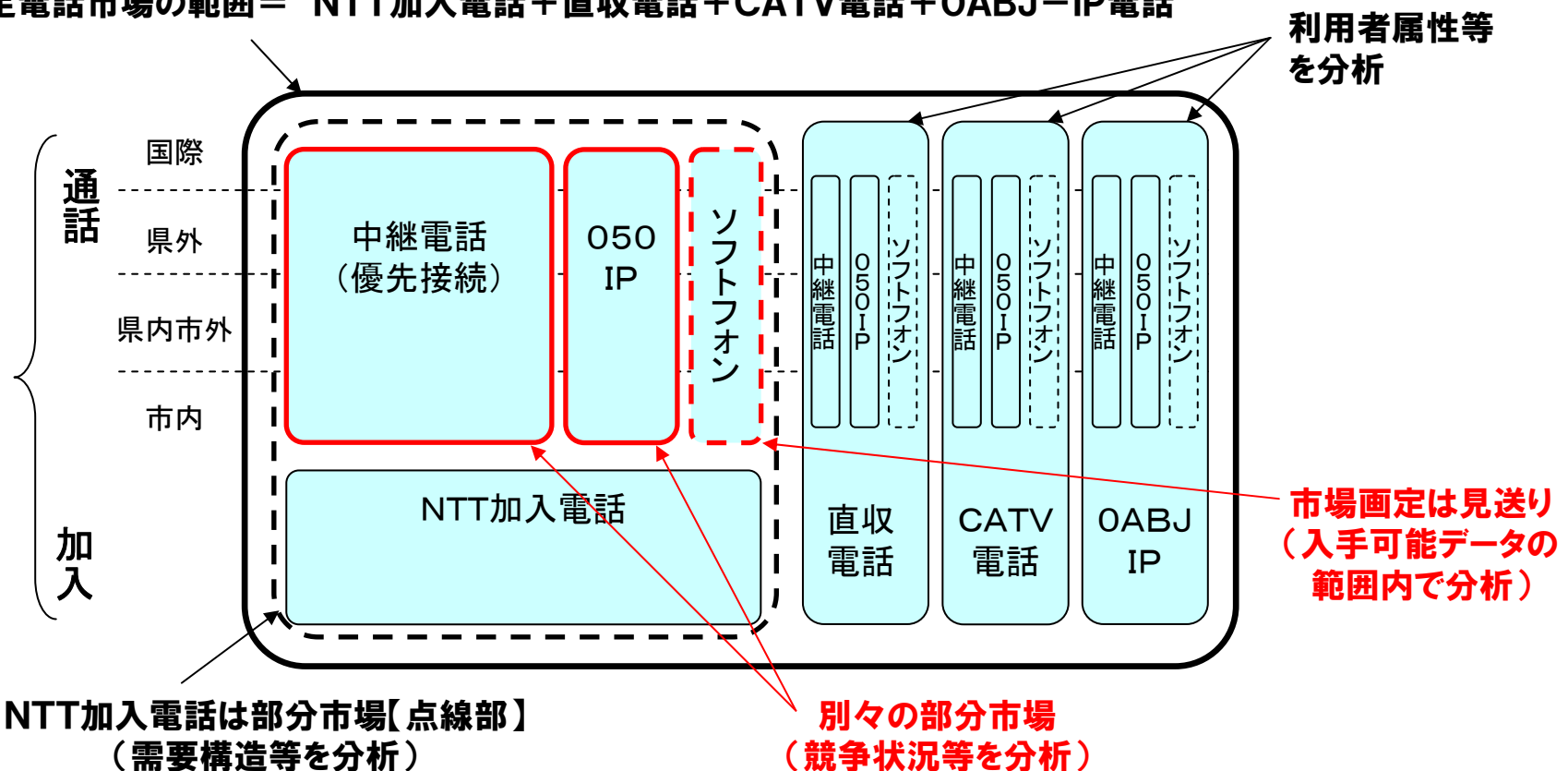
【サービス市場】

- 固定電話市場は「NTT加入電話+直収電話+CATV電話+OABJ-IP電話」の範囲。
- NTT加入電話は部分市場。中継電話と050-IP電話の別に市場を分析。(※ソフトフォンは市場画定せず)

【地理的市場】

- 都道府県単位が最小の分析対象。東日本・西日本の2地域、全国10の地域ブロックで市場を分析。

固定電話市場の範囲 = NTT加入電話 + 直収電話 + CATV電話 + OABJ-IP電話



050-IP電話の扱い(インターネット接続市場との関係)

050-IP電話は、「固定電話市場」としてのみでなく、次の2つの視点から多面的に分析。

- ①050-IP電話を「インターネット接続市場」の部分市場と位置づけ。
→ 多くの利用者は、050-IP電話をインターネット接続の付加サービスとして認識。
- ②050-IP電話と0ABJ-IP電話を「IP電話市場」として位置づけ。
→ 050-IP電話と0ABJ-IP電話の区別の認知が低く、多くの利用者は単に「IP電話」として認識。

